

【地域医療構想とは？】

急速な少子高齢化による医療介護需要の増大と疾病構造の変化に対応するために都道府県が策定する地域における将来の医療提供体制に関する構想で、将来の医療需要に応じた、より効率的で質の高い医療提供体制の構築を目指すものです。

【必要病床数（将来の病床の必要量）とは？】

平成25年の実際の医療の実績に基づき、平成37年の人口推計などを踏まえて将来の医療需要を推計し、その需要に応じて必要になる病床数を4つの病床機能ごとに推計したものです。

【4つの病床機能とは？】

機能区分	入院医療の内容
高度急性期	難しい手術や集中治療室への入院
急性期	一般的な手術や手厚い看護の必要な入院
回復期	急性期後のリハビリや在宅への復帰に向けた入院
慢性期	慢性的な病状の患者さんが長期で療養を行うための入院

【必要病床数の性格】

- 将来のあるべき医療提供体制を検討するための方向性を示すものです。
- 法令に従い、一定の仮定に基づいて推計したもので、今ある病床を必要病床数まで直ちに削減するものではありません。
- 地域で不足する病床機能への転換や在宅医療等の体制整備などについては、地域での協議を踏まえて医療機関が自主的に構想の実現に取り組みます。

【構想区域とは？】

地域医療構想では、構想区域（二次保健医療圏）を単位として将来の医療提供体制を一体的に構想し、その実現に取り組みます。

【病床機能報告制度とは？】

一般病床・療養病床のある医療機関は、現在の病床機能と6年後の病床機能の予定を4つの機能区分から選択し、毎年報告することになっています。

【協議の場（地域医療構想調整会議）について】

地域医療構想の実現に向けては、構想区域ごとに県が設置し、医療関係者や市町村等を構成員とする「協議の場」（地域医療構想調整会議）で話し合いを行い、その協議結果に基づいて取組を進めて行きます。

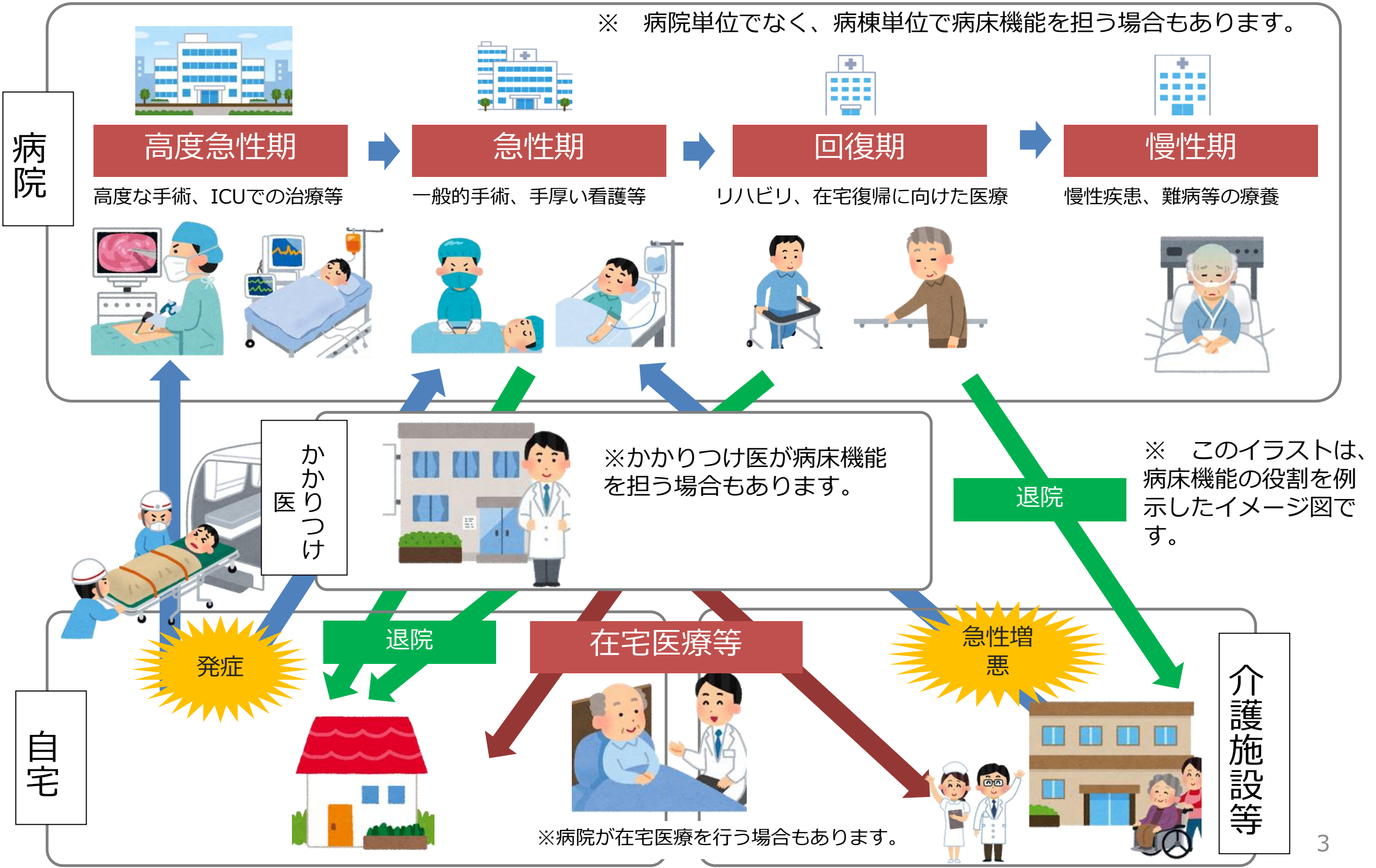
【協議の進め方】

地域医療構想調整会議では、病床機能報告の結果などを参考に、地域の実情を踏まえて、病床機能の分化と連携の推進、医療と介護の連携、在宅医療等の体制整備、医療従事者の確保等について協議します。

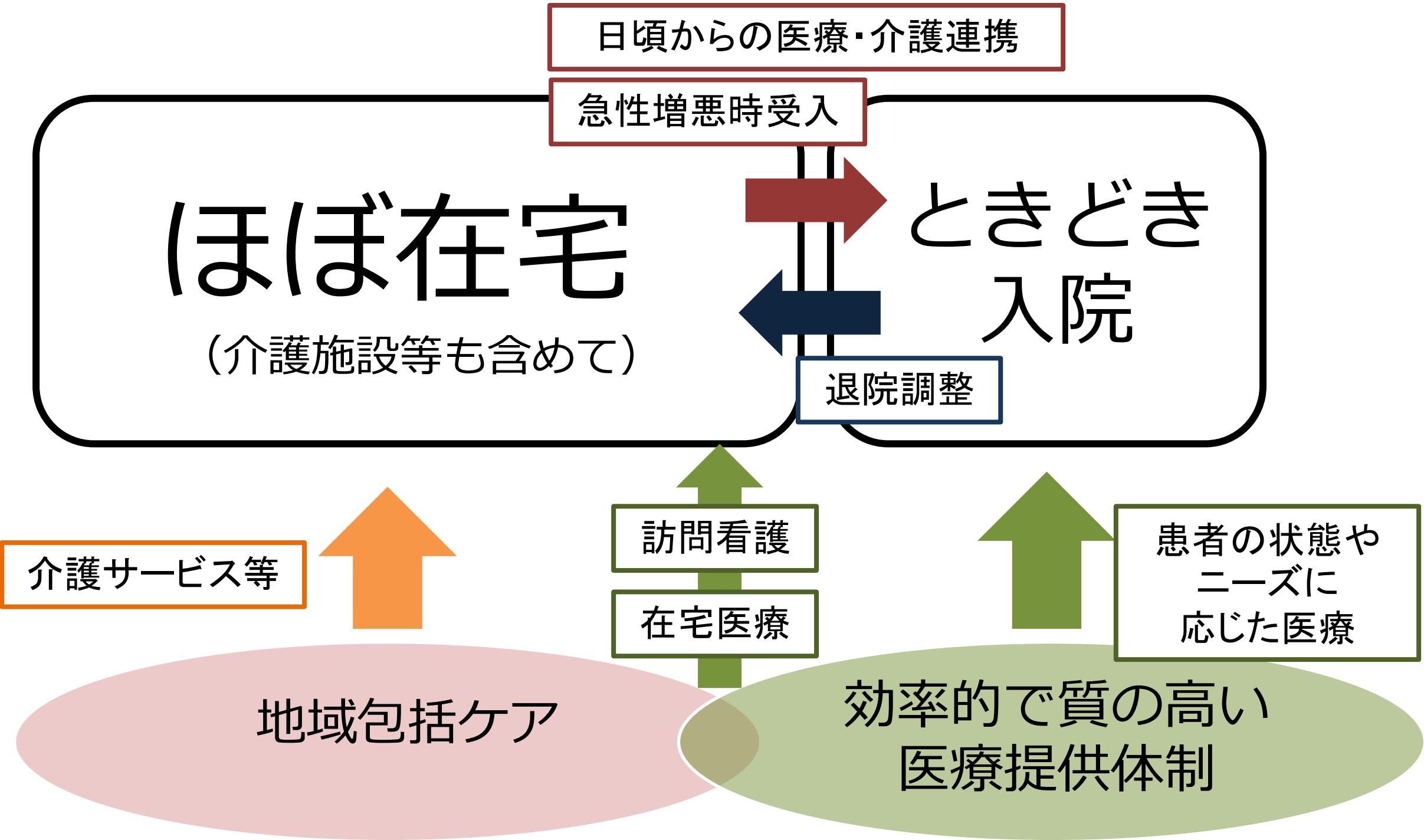
【在宅医療等について】

患者が住み慣れた地域や自宅で生活しながら必要な医療を受けられるためには、居宅だけでなく介護施設等も含めた在宅医療等の体制整備に取り組むことが必要となりますが、地域の実情を踏まえた在宅医療等の体制整備が先行したうえで、在宅医療等への移行を進めることが不可欠です。

参考 1 病床機能の分化と連携のイメージ



参考 2 地域医療構想と地域包括ケアシステム



地域包括ケアシステムと効率的で質の高い医療提供体制は、
社会保障改革における「車の両輪」